

平成29年度 豊小学校教育を語る会だより

平成29年7月7日
豊地区教育を語る会
実行委員会・豊小学校
編集者 小澤

7月3日(月)地域ふれあい道徳公開と教育を語る会が、行われました。教育を語る会は、山梨英和大学副学長・教授 小林真理子先生をお招きし「子どもの心の成長と親のかかわり方 ～育てる親もハッピーになろう～」をテーマに、講演会を行いました。小林先生の専門は、臨床心理学・障害児心理学等です。普段は、大学院生に講義をしています。今日は、皆様に心理学の視点から、講演会の内容をお知らせします。



- 講義の主な内容
- 1 成長発達とは
 - 2 子どもの心の成長
 - 3 子どもへの関わり方

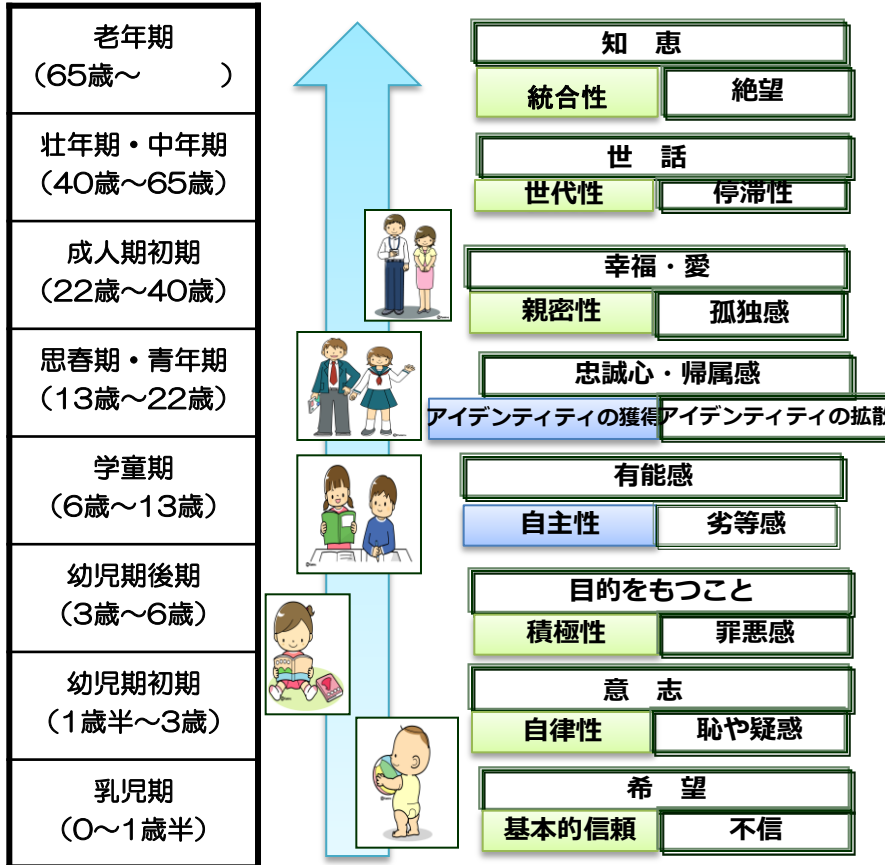
- 1 成長発達とは
- 遺伝と環境の双方が影響している。遺伝と環境が相互に作用しながら発達過程を形成していく。

小学生の発達の課題は、勤勉性VS劣等感です。がんばることで成功体験をつんだり、失敗することで学んでいきます。また、生活の場所や時間が、家庭から学校や習い事などに広がっていきます。また、同年齢の子ども同士で、力を発揮しあう時期です。



2 子どもの心の成長

ライフサイクルについて(E.H エリクソン)



「子どもは、心の成長の段階に応じて、悩みの内容も変化することがわかりました。発達定義であつたり、自分の分析された性格から、子どもへの関わり方を考えていくことも一つの方法である」とわかりました。」

「ポジティブな力とネガティブな力が拮抗して、ポジティブな力がより勝る体験をすることにより、「統合性が増す」というお話は、「なるほど」と思いました。もつと知りたいと思いました。」

「興味深い内容でした。時間が経つのがあつという間でした。大変面白かつたです。発達段階に応じて形成されていく「心」や「必要な活動」が、理解できました。子どもだけでなく、親の私自身も一緒に発達していくのだなあと、気持ちが楽になりました。」

「エリクソンのライフサイクルの話題で、ポジティブ面だけでなく、ネガティブな面にも人間には必要であるという。子どもが置かれている状況を親もよく観察し、時には、ネガティブな場面に身を置くことも、豊かな心の発達を育むことになることがわかりました。心理テストも含め、自分のことがよくわかり、とても楽しい講演でした。」

参加者からの声

中学生～22歳頃までは、思春期・青年期です。自分自身をつかみきれない時期であり、自分らしさを獲得する時期です。二次性徴や心の成長で、これまで以上に複雑で、多くのエネルギーを必要とする激しい時期・メンタル面の課題(多くの精神疾患等)が、表出する時期です。そして、思春期は必ず終わり、次の成人期初期に向かって、心は成長していきます。





3 子どもへの関わり方 自分のプチ危機対応のクセを知ろう



演習を3つしました。そのうちの1つです。紙面での紹介には、限界があります。詳しく知りたい方は、参加された方や学校へ御問い合わせください。

演習1

Dさんになったつもりで対応してみましょう。

場面 Dさんは、待ちに待っていた限定品の○△○を買いに、1時間ほどかけて◇▽◇の店まで出かけた。

そこで、定員が「すみません。ひとつだけ残っていた○△○も先ほど売り切れてしまいました。」と言います。

Dさんになったつもりで、対応すると？

自分の対応を、9パターンの回答へ当てはめる。複数回答可。

	障害優位型	自我防衛型	要求固執型
他責型	他責逡巡反応 欲求不満を起こさせた障害の指摘の強調にとどめる反応	他罰反応 とがめ、敵意などが環境中の人や物に直接向けられ反応	他責固執反応 欲求不満の解決をはかるために他の人が何らかの行動をしてくれることを強く期待する反応
自責型	自責逡巡反応 欲求不満を起こさせた障害の指摘は内にとどめる反応	自罰反応 とがめや非難が自分自身に向けられ、自責・自己非難の形をとる反応	自責固執反応 欲求不満の解決をはかるために自分自ら努力をしたり、あるいは罪償感から賠償とか罪滅ぼしを申出たりする反応
無責型	無責逡巡反応 欲求不満をひき起こさせた障害の指摘は最小限度にとどめられ、時には障害の存在を否定するような反応	無罰反応 欲求不満をひき起こしたことに對する非難を全く回避し、ある時にはその場面は不可避的なものと見なして欲求不満を起こさせた人物を許す反応	無責固執反応 時の経過とか、普通に予期される事態や環境が欲求不満の解決をもたらすだろうといった期待が表現される反応

参加者からの声

「教育を語る会へ参加してよかったです。次は、子育ての悩みや子どもが感じる悩みについて、聞きたいです。」

子どもの気持ちは今より少しでも分かりたいと思い参加しました。心の成長の課題や問題が分かりやすかったです。次は、小学生のところを深く掘り下げてもらいたいです。

子育てをする中で、子供の欲求を上手に満たしてあげられないことや、ほめて伸ばしてあげたいと思いつつ怒ってしまうことが、日々あります。もちろん、できるだけのよううにしてあげたいと思いは変わりますが、小林先生のお話から、「たまにはできなくても大丈夫。」と自分を前向きにして、子どもと向き合えるような気がしました。

「自分を知る」機会になりました。自分を知ること、心の持ちようが良い方向に向かったらいいなあと思いましたが、(多数の御意見をいただきました。)

とても面白い講演でした。自分を知るよいきっかけになりました。心理テストも面白かったです。欲をいえば、もっと多くの人に参加して頂きかったです。クラーが効いた会場と冷えたお茶ありがとうございました。

心理学の研究者の理論から、成長・発達についての講演でした。日頃、聞けない内容でした。ありがとうございました。

心理テストを行い親自身の性格を分析しました。やはり、自分でも思い当たる結果でした。自分の性格や心のクセが、わかると、子どもへの関わりも変わりますね。ありがとうございました。

内容が難しかったです。もう少し、体験的な内容だと思っていました。次は、小学生の子育てを中心に話して欲しいです。

抽象的な内容ではなく、明日から役立つような具体性がある講義が良いです。

ワークの心理分析は、自分の性格を客観視することができ、子どもへの関わりを見直す良い機会になりました。

発達には次の力が拮抗する。

- 成長・健康に向けて・・・ポジティブな力
- 退行・病理に向かう・・・ネガティブな力

★ 生涯に渡り、ポジティブな力が勝るような体験・経験をすることによって、自分自身をよりよく生きていく力を蓄えていく。